

おくすりの多剤重複の解消やおくすり手帳の活用

指導教員 金沢大学 教授 菅 幸生
金沢大学 助教 石田 奈津子

参加学生 羽渕 風雅 荒井 翼 桂 あやの 白崎 薫
竹中 リナ 塚田 美帆 柴田 祥士弘 高垣 皓一
藤森 麻弥 山内 彩椰

本活動で実施している「おくすりサロン」は、地域住民の健康を支援する場であるとともに、地域住民と薬学生の交流の機会として学生の社会性や医療者としての自覚を涵養する貴重な場でもあります。

活動にご支援・ご協力くださいました野々市市役所・野々市市地域包括ケアセンターの皆さんに感謝申し上げます。

金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学研究室Instagram



おくすりの多剤重複の解消やおくすり手帳の活用

野々市市「おくすり」問題

複数医療機関受診による多剤服用や重複投与が地域包括支援センターから報告国の施策として医薬品の適正使用や医療費抑制が求められている

医薬品の適正使用を推進することで、地域住民の健康をサポートし、健康なまちづくりに寄与することを目指す

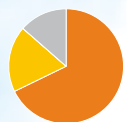
① 地域活動

野々市市内地域サロン5カ所においておくすりサロンを実施
地域高齢者等59名が参加

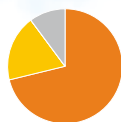
参加者アンケート

質問1. かかりつけ薬局について

質問2. お薬手帳の役割について



● とても理解できた
● 少し理解できた
● ほとんど理解できなかった
● 全く理解できなかった
● 未回答



● とても理解できた
● 少し理解できた
● ほとんど理解できなかった
● 全く理解できなかった
● 未回答

学生による〇×クイズが大好評!!!



学生の声（一部抜粋）

- 普段、地域の方々と関わることがあまりないため貴重な機会だった。
- 発表など緊張する場面もあったが、人の役に立てることを実感できたため、参加して良かった。
- 自分たちが当たり前だと感じていることを地域の方は意外と知らないことを知れた。
- 一般の方にわかりやすく伝えるためにどうすればよいか考えるきっかけになった。
- 高齢の方とお話する機会が普段なかなかないので、いい経験になった。
- 地域のみなさんがどのようなことに関心があるかを学ぶ貴重な機会となりました。
- 参加してくれた高齢者の方たちも優しく話を聞いてくれたので人前で話しやすい練習になった。
- はじめは緊張していたのですが、お年寄りの方々が一緒にクイズを楽しんで下さったので緊張がほぐれて私もとても楽しかった。
- 薬学の知識を深めたり、コミュニケーション力をつける良い機会になると思う。

地域高齢者と学生と交流の場にも!



おくすりサロンで好評だった
おくすり〇×クイズのパンフレットを作成

問題は10問



1. 薬を飲み忘れたので次のタイミングで2回分の薬を飲んだ。
2. 朝食を食べなかったが「食後」の薬を服用した。
3. ステロイド軟膏は副作用が怖いので、塗る量はできるだけ少ない方がよい。
4. 目薬をさした後はすぐに目をパチパチして薬を目になじませた方がよい。
5. 目薬は1滴させば十分である。
6. 病院でもらった湿布が余ったので、家族にあげた。
7. 薬が余っていたので、病院で処方せんをもらってから1週間後に薬局に行った。
8. ジェネリック医薬品は先発医薬品と効果や副作用に違いはない。
9. 病院でもらうお薬とまったく同じお薬を薬局やドラッグストアで買うことができる。
10. お薬のことは薬剤師に相談すればいい。

今後の目標

- ① おくすりサロンの継続開催
野々市市住民の医薬品適正使用に関する意識向上
- ② KDBデータ集計・解析
解析結果をおくすりサロンにフィードバック
災害時の医薬品備蓄への活用

金沢大学医薬保健研究域薬学系 臨床薬学研究室

担当教員: 菅 幸生, 石田 奈津子

担当学生: 羽淵 風雅, 荒井 翼, 桂 あやの, 白崎 薫, 竹中 リナ, 塚田 美帆

柴田 祥士弘, 高垣 皓一, 藤森 麻弥, 山内 彩椰



1. 活動の要約

本活動では、野々市市における医薬品の適正使用や高齢者医療費の抑制を目的とし、野々市市と協働して展開している「くすりと健康プロジェクト」の一環として地域サロンにおいて地域高齢者を対象として「おくすりサロン」を開催した。おくすりサロンでは医薬品適正使用に向けた講話のほか、学生によるおくすり〇×クイズを実施した。本サロンは地域住民と学生との交流の場にもなり、地域住民にとっては健康について学ぶ機会、学生にとっては地域の健康問題について考える機会となった。

また、今後の更なる取り組みに向けて、国保データベース（KDB）データを利用した高齢者の医薬品適正使用のための研究に向けて基盤整備を行った。

2. 活動の目的

近年、医療サービスの多様化や複数の医療的介入を必要とする高齢者の増加を原因として、多剤服用や重複投与といった薬物療法に関連する問題が顕在化している。多剤服用や重複投与は副作用の発生リスクの増加や服薬アドヒアランスの低下など患者の不利益につながることはもちろん、医療費の増大にもつながるため、地域行政としても重要な問題である。

野々市市は、一般診療所の人口 10 万人対施設数が全国平均よりも高い地域特性から、複数医療機関受診に伴うと考えられる多剤服用や重複投与の高齢者がいることを、支援する地域包括支援センターより報告されていた。また、国の施策の一つとして医薬品の適正使用や医療費抑制が求められていることから、野々市市としても取り組むべき課題としてあげていた。

当ゼミでは、2022 年度から野々市市と協働で「くすりと健康プロジェクト」を展開している。本活動は、薬剤師経験を有する教員が中心となり、野々市市内での「おくすりサロン」開催などの地域活動と KDB データを利用した研究活動を通して、野々市市において医薬品の適正使用を推進することにより地域住民の健康をサポートし、健康なまちづくりに寄与することを目的としている。

3. 活動の内容

2023 年度は医薬品適正使用に関連する地域活動・研究活動として以下の活動を行った。

<地域活動>

野々市市内の地域サロンにおいて「おくすりサロン」を開催した。おくすりサロンでは、教員が多剤服用や重複投与のリスクやお薬手帳の役割、医薬品適正使用のための薬局・薬剤師の活用方法についての講話や個別相談を行ったほか、ゼミ学生によるおくすり〇×クイズを実施した。さらに、野々市市が包括連携協定を締結している企業に協力をいただき、骨密度測定やカルシウム補給のためのサプリメントや牛乳の配布を行った。



写真 1. おくすりサロンの写真（左：おくすり〇×クイズ、右：参加者と学生との対話）

＜研究活動＞

国保データベース（KDB）システムは、医療保険（国民健康保険・後期高齢者医療）や介護保険、特定健診等の情報からなる大規模データベースシステムであり、市町村による効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的としている。

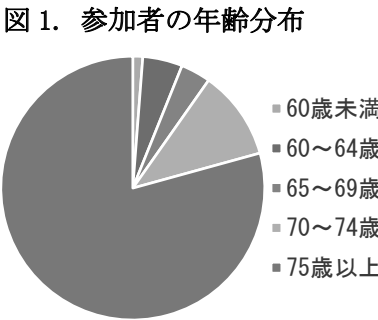
当ゼミはこの KDB データを集計・解析した結果をおくすりサロンで地域住民に還元することで医薬品適正使用を促すポピュレーションアプローチと、医薬品副作用による健康被害に関するリスクの高い住民を抽出する手法を検討するハイリスクアプローチを組み合わせ、KDB データの利活用を行い、地域に還元していく。

4. 活動の成果

1) おくすりサロンの実施

野々市市内の地域サロン 5 カ所においておくすりサロン（表 1）を実施し、地域高齢者等 59 名が参加した。

表 1. 2023 年度野々市市おくすりサロン		
日時	サロン名	場所
2023 年 6 月 6 日	本町 1 サロンめだか	防災コミュニティセンター
9 月 22 日	本町 4 すみれ会	野々市本町四丁目会館
10 月 16 日	菅原町やるまい会	菅原町集会所
10 月 25 日	扇が丘カフェ	住吉扇が丘なかよし会館
11 月 16 日	本町 6 スマイルサロン	本町六丁目会館



本年度のおくすりサロンには 9 名の学生が参加し、おくすり〇×クイズや会場設営、参加者応対などを行った。参加したゼミ学生からは下記の声を得た。

学生の声

- 普段、地域の方々と関わる機会があまりないため貴重な機会だった。
- 発表など緊張する場面もあったが、人の役に立てることを実感できたため、参加して良かった。
- 自分たちが当たり前だと感じていることを地域の方は意外と知らないことを知れたため、医療従事者が情報を発信する重要性を感じた。
- 地域の方に喜んでもらえて良かった。
- 薬学関係の方以外の前で発表することで、一般の方にわかりやすく伝えるためにどうすればよいか考えるきっかけになった。
- 高齢の方とお話する機会が普段なかなかないので、いい経験になった。
- お薬手帳やポリファーマシーについて、一般の方々がどのくらい理解しているのかを知ることができた。
- 地域みなさんがどのようなことに興味があるかを学ぶ貴重な機会となりました。
- 参加してくれた高齢者の方たちも優しく話を聞いてくれたので人前で話すいい練習になった。
- 普段の生活では得難い経験なので、大変有意義だと感じました。
- はじめは緊張していたのですが、お年寄りの方々が一緒にクイズを楽しんで下さったので緊張が

ほぐれて私もとても楽しかったです。

- 薬学の知識を深めたり、コミュニケーション力をつける良い機会になると思うので、学生の参加を続けていってほしいと思う。
- 機会があればまたぜひ参加したいです。

図 2. おくすり〇×クイズパンフレット

2) おくすり〇×クイズパンフレットの作成

本年度から開始したおくすり〇×クイズが参加者・学生ともに非常に好評であったため、配布用のパンフレット（図 2）を作成した。

3) KDB を利用した研究の基盤整備

野々市市 KDB データを利用した研究を実施するために、野々市市担当者（健康推進課・保険年金課）との定期的な連絡と野々市市役所における 2 回の打ち合わせを行い、次年度から本格的に研究開始できる体制を整備した。



5. 今後の活動計画

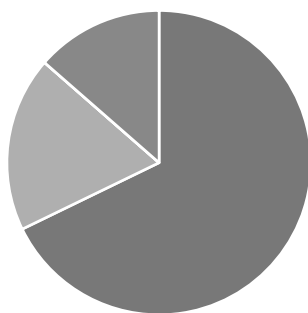
2024 年度以降も定期的に野々市市内の地域通いの場で地域高齢者を対象におくすりサロンを開催する。さらに来年度以降は老人会等の地区組織や個人事業主である農業従事者等でもおくすりサロンを開催することにより多くの住民を対象として野々市市全体の医薬品の適正使用に関する意識向上を目指す。

また、KDB データを集計・解析することで、野々市市における医薬品使用実態の把握や減薬のためのアプローチ方法を検討する。また、災害時のための医薬品備蓄体制構築への活用についても検討していく。

6. 活動に対する地域からの評価

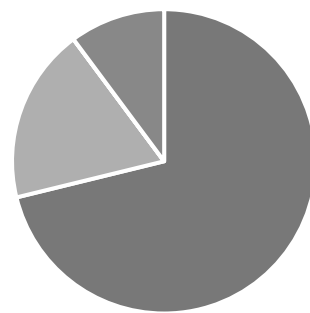
2023 年度おくすりサロンに参加した野々市市民にアンケートを実施し、下記回答を得た。

質問 1. かかりつけ薬局について



- とても理解できた
- 少し理解できた
- ほとんど理解できなかった
- 全く理解できなかった
- 未回答

質問 2. お薬手帳の役割について



また本活動について野々市市役所および野々市市地域包括ケアセンターの方から以下の声を頂いた。

野々市市からの声

- 地域の高齢者にわかりやすく説明いただき、みなさん勉強になったと喜ばれていました。また学生が入ることで通いの場に活気が出た、楽しかったと話されていました。
- おくすりサロンに来られたみなさんはおくすり手帳を持参し、教員や学生に質問されていました。自分の服用している薬について、興味を持つ機会が持てたこと、またより自分の身体について理

解を深め、発症・重症化予防についても考えることができたかと思います。ありがとうございました。

- お薬手帳の活用やかかりつけ薬剤師、薬局を持つメリットについて包括職員が聞いてもわかりやすくなる内容でした。また、クイズをしながら楽しく学べ、質問ができる雰囲気よかった。ためになる内容なのでたくさんの方に聞いてもらいたいと思いました。